

遼寧だより（令和7年12月）

■12月の実施事項

- | | | |
|----------|----------|------|
| 12/7（日） | 張学良旧居陳列館 | …（1） |
| 12/20（土） | 瀋陽市博物館 | …（2） |
| 12/29（月） | 期末テスト | |

（1）張学良旧居陳列館

12月7日（日）に、張学良旧居陳列館を訪れました。

張学良旧居陳列館では、1914年に建築が開始され張学良が私邸及び執務室として使用していた建物を見学することができます。入ってすぐの場所には、中国の伝統的な建築様式である四合院があります。鮮やかで繊細な彫刻が彫られた建物が残っており、タイムスリップしたような気持ちになりました。四合院を抜けると、ローマ様式で建てられた「大青楼」があります。大青楼は、中国の歴史的建造物によく使われている青レンガというレンガを使用しているため、この名前になりました。建物の中には、張学良の執務室や居室など当時の様子が再現されています。外観は洋風ですが、内観には中華風デザインを採用している部分もあり、興味深かったです。大青楼内の部屋はどこも豪華で興味深かったですが、私が一番印象に残った部屋は、「老虎厅」です。老虎厅は、その名のとおり虎の皮が置かれている部屋で、張学良が重要なお客様を接待していたそうです。虎の迫力に圧倒されました。

今回は、美しい建築を見ることができたとともに歴史についても勉強することができました。瀋陽には歴史的建造物が多く残っているので、引き続き訪問していきたいと思います。



大青楼



老虎厅

(2) 潘陽市博物館

12月20日（土）に潘陽市博物館を訪問しました。

潘陽市博物館は、市中心部の西側に位置し、潘陽市の歴史や文化に関するものが展示されています。1階に潘陽の故宮で発見された清の時代の宮廷家具が展示されており、2階は旧石器時代から近代における潘陽市の歴史に関する展示があります。1階の宮廷家具コーナーでは、皇帝が使用していた椅子など様々な家具が展示されていました。草花や龍など、すべての家具に細かい彫刻が施されており、その技法に圧倒されました。2階の歴史を紹介するコーナーでは、旧石器時代の遺跡が潘陽にあることを知りました。新石器時代の遺跡も潘陽で発掘されており、改めて潘陽の歴史の深さを知ることができました。その他にも潘陽故宮やチャイナドレスの歴史に関する展示など興味深い展示が多かったです。

潘陽博物館の帰りに、「回族」という少数民族が多く住んでいる地域にも訪れました。中国には55の少数民族が存在しており、少数民族の人口は中国全体の約8%です。遼寧省には43の少数民族が存在しており、省人口の約15%を占めています。潘陽市内には少数民族が多く住んでいる地域がいくつかありますが、潘陽市博物館の近くに回族が多く住んでいる地域があります。回族の多くはイスラム教を信仰しているため、この地域はすべてハラル料理店であり、モスクもあります。今回は、ハラルフードを提供する中華料理店に行きました。東北の伝統料理や回族ならではの料理もあり、どれも美味しかったです。

引き続き博物館等で歴史を勉強するとともに、少数民族が集まる街も積極的に訪れたいと思います。



皇帝が使用していたとされる椅子



遼の時代の金でできたお面